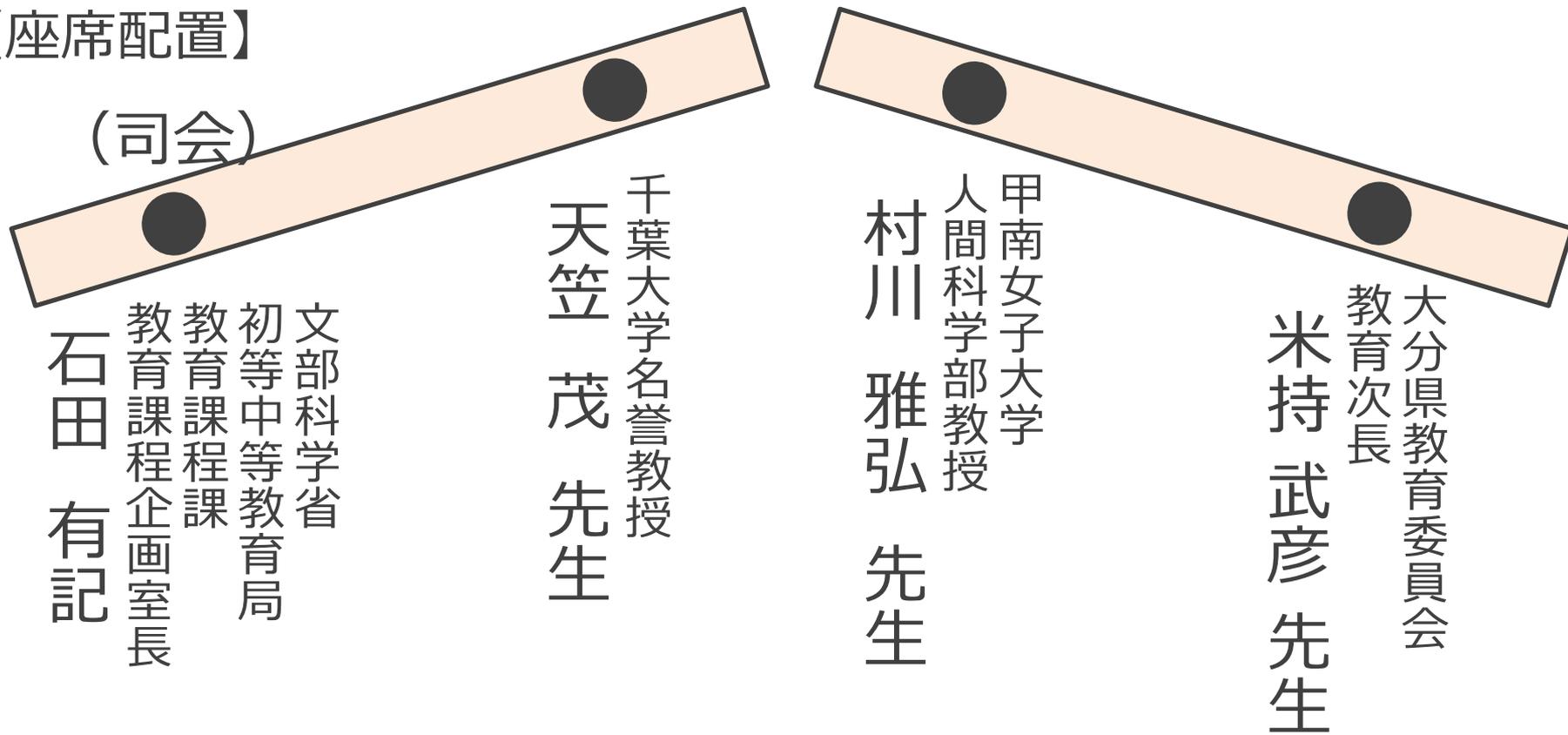


# 令和3年度 第17回研究開発学校フォーラム 講評

## 研究開発学校フォーラムの趣旨

主として最終年度の研究開発学校による研究発表及びサテライトセッションを行い、研究発表を広く一般に公開することにより、教育研究開発事業の意義について理解を増進するとともに他校における研究成果の活用及び教育課程・指導方法の充実、改善を促すためのものです。

### 【座席配置】



# 研究開発を進めるにあたって

(村川雅弘@甲南女子大学)

- ① **現行学習指導要領**の正確な理解と着実な実施を踏まえて上での課題設定とその改善のための取組を
- ② **先進校の実績や自校の遺産**を踏まえての取組を
- ③ 成果だけでなく、そこに至る**研究過程**の明示を
- ④ **異動してきた教員**への研修と意見の聴取を
- ⑤ メリットだけでなく、**デメリット**に対する意識とその発信を（時数を削られた教科等）
- ⑥ **研究のための研究に陥らない**意識の持続を
- ⑦ 参考にしたアイデアや情報の明示を

# 研究開発学校の学校経営

---

2022(令和4)年1月18日

文部科学省

天笠 茂(千葉大学名誉教授)

# 講評

---

1. 開発教科と既設教科との関係
2. 開発授業・実践と教育課程開発との関係
3. 研究開発の体制や過程の明示
4. 研究開発の成果をもとに学習指導要領への知見の提供
5. カリキュラムデザイナーとして

# 研究開発学校をマネジメントする

---

- 研究開発が目指すテーマを読み取り、授業研究すべき課題をとらえ、そのもとに単元及び一時間の授業を組み立てる。
- 授業とカリキュラム開発との往還
- カリキュラムリーダーシップの発揮：授業者の個人としての技量の世界と、組織として開発に向かうカリキュラムとの間をつなぐ
- 授業者の考え、授業実践、アイデアに方向性を示し、学校としてのカリキュラムへと創り上げる
- 知識や知恵を組織して研究開発に向かう

# 研究開発学校の地域課題解決の価値

大分県教育委員会教育次長 米持武彦

## ①地域課題解決に向け、域内の学校種全体で取り組む価値

＜持続可能な地域づくりに向けた縦連携＞

○北海道東川町(東川小)の幼小中高の「Globe」

・地域人材の包括的な活用

○岩手県住田町(世田米小)の小中高の「地域創造学」

・社会的実践力を核にした新教科学習指導要領解説を、研究の初年度から作成して、全校で教室展開できるように教委が支援

＜小規模校教育水準の維持向上のための横連携＞

○北海道立夕張高校(9校)の遠隔授業

・小規模校9校で、相互の専門性を生かし、遠隔授業

## ②指導的・先導的なモデルの提示が使命の国立附属の価値

○東京学芸大学附属大泉小の「探究科」

・新教科の時間数の捻出の手順、3つの柱の明示でカリマネ可能に

# 意見交換 ～研究開発の取組の充実に向けて～

## (参考) 研究開発の評価

<研究開発学校フォーラム冊子p.9～10より>

(1) 課題設定の的確性

(2) 計画や手順の妥当性

(研究開発計画の明確化・焦点化、研究体制の工夫、教職員の共通理解など)

(3) 研究のねらいの達成度

(4) 研究の結果得られた結論の実証度

(5) 研究成果の一般性